六甲山のキノコにはどんな多様性があるのか
～地域連携から伝える生物多様性～

吉田みやび　辻彩乃　日野晧平　柳原なな子　野中涼夏　石橋智尋　関口高雄
（兵庫県立御影高等学校　環境科学部生物班）

はじめに

本校では平成20年度から兵庫県立人と自然の博物館・兵庫きのこ研究会・神戸市立森林植物園・神戸ＹＭＣＡ・バイオコスモ株式会社などと協力しながら六甲山のキノコの調査を行っている。六甲山の再度公園（ふたたびこうえん）のキノコの多様性を標本作成、生態分析などから多くの人に伝えることが活動の目的である。

調査方法

① 採取したキノコを標本化して人博で六甲山のキノコ展として公開（2018年2月11日～5月25日）

② 2001～2016 までのキノコの観察記録から、キノコの出現頻度などを調査

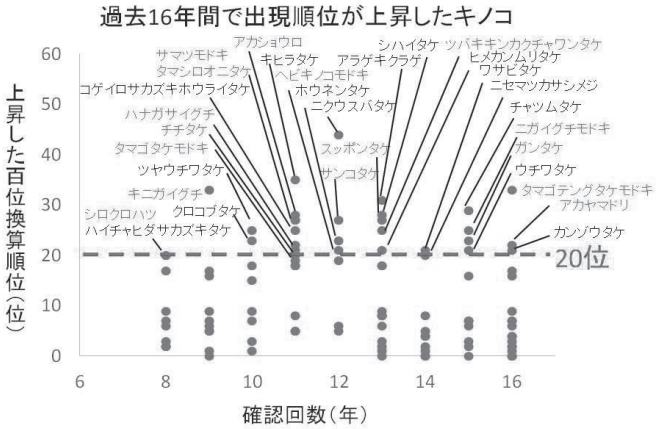
③ 過去16年間の出現頻度の変化を100位換算した移動平均で分析

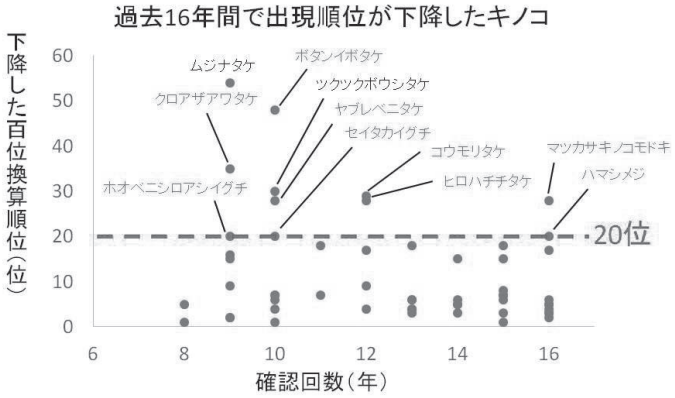
結果と考察

① 2017 年度は猛毒のカエンタケなどを標本化し、保有数は520種あまりとなった。

② 出現傾向を見ると全種数のうちの半数近くを出現頻度の低い種が占め、希少種が多様性を支えている。

③ 出現順位が20位以上上昇したキノコは、下降したキノコに比べて多く、菌根菌と腐生菌がほぼ半々を占めた。また20位以上下降したキノコには腐生菌は少なく、菌根菌では常緑樹と共生関係をむすぶ種はほとんど見られなかった。発見種数の増加が順位上昇と関係していると考えられる。また腐生菌は分解者であるので、順位の下降がほとんど見られないものと考えられる。





過去16年間で出現順位が20位以上変動したキノコ